

OKFニュース

公益財団法人 大阪腎臓バンク

高齢化時代の腎代替療法



大阪腎臓バンク評議員会会長
武本 佳昭

今回伝統ある大阪腎臓バンクの評議員会会長に就任させていただきました。大阪における腎不全患者のQOL/ADLが改善していくように努力したいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、大阪における腎不全に関する団体は学術団体としての大阪透析研究会、透析に関連する医師の会である大阪透析医会、患者会である大阪腎臓病患者協議会、腎不全に関する研究や腎移植の推進などに助成を行う公益財団法人大阪腎臓バンクがあり、以前から連携を密に取りながら大阪の腎不全患者のQOL/ADLの改善を目標に活動してきております。私は2024年3月まで大阪透析研究会の理事長を務めさせていただいた関係から大阪腎臓病患者協議会の総会には毎回出席させていただき患者さんとじかに意見交換をさせていただいておりました。また、大阪透析研究会が行っている腎不全患者の実態調査においては大阪腎臓バンクから毎年ご助成いただき調査結果をまとめさせていただきました。大阪透析研究会では各学術集会において優秀な研究発表を表彰することにしておりますが、その優秀演題にたいして大阪腎臓バンクから褒賞金をいただき、多くの発表者のモチベーションにつながったこと感謝しております。このように、大阪透析研究会と大阪腎臓バンクは共同で事業を行っており、より良い腎不全治療を目指して活動しております。大阪腎臓バンク評議員として今後も密な連携を取りながら事業を推進していきたいと考えております。

日本においては大変なコロナ禍もあり、2022年末において初めて透析患者数が減少いたしました。今後透析患者数が継続的に減少していくかは不透明ですが、患者数が増加しないと予測されます。また、透析患者の高齢化につ

いては年々充進しており、70歳以上の患者は2022年末で57.4%を占めていると報告されています。今後の腎代替療法の進む方向性は患者の高齢化を無視しては考えられないことはいうまでもありません。現在の腎代替療法施行患者さんの平均年齢を日本透析医学会のWADAシステムから2022年末において調べてみると、血液透析患者71.81歳、オンラインHDF患者67.64歳、I-HDF患者71.35歳、在宅血液透析患者57.06歳、腹膜透析患者68.05歳となっております。これを見ますと自分で治療手技を行う在宅血液透析患者や腹膜透析患者は血液透析患者と比較すると若年になっています。また、オンラインHDF患者も若干若年になっていることから蛋白漏出量が比較的多いと考えられるオンラインHDF療法が若年者に適応されていることがうかがえます。各治療法の透析歴についても同じように調べると血液透析患者6.62年、オンラインHDF患者8.71年、I-HDF患者7.12年、在宅血液透析患者12.67年、腹膜透析患者2.57年となっております。腹膜透析患者ではその手技の継続率が低いことから透析歴は短くなっています。オンラインHDF患者や在宅血液透析患者では合併症に対する治療という側面もあり、透析歴が長くなっています。

今後高齢化がますます進んで行く日本においてどのような腎代替療法が選択されていくかを考えると、血液透析と同じような選択基準で施行されている腎代替療法が選択されることが推察されます。そのような視点から、透析歴及び年齢が血液透析患者と同じようなI-HDF療法がHDF療法のメリットを生かしながら選択されていく可能性も考えられます。従って、今後さらにI-HDF療法に関するエビデンスの構築などを助成しながら患者さんのために尽くしていきたいと考えます。

(大阪公立大学大学院教授)

令和5年度事業報告・決算の概要

令和5年度の事業活動については、概ね計画通り実施されました。

事業報告

1. 腎不全実態調査助成事業

近畿献腎移植施設会議症例検討会に20万円の助成を行いました。

2. 若手研究者に対する研究助成

令和5年度の研究助成事業も、大学・病院医師・コメディカルといった様々な所属や移植・透析・CKDといった様々な医療分野からの申請を一律に審査していた方法を改め、様々な分野の研究テーマに幅広くチャンスを与えるため、施設・資格、医療分野ごとに枠を設け、その各々の枠の中で審査を行うこととしました。その結果、14件の申請に対して基礎分野は5件、臨床分野は7件を助成対象としましたが、コメディカル部門は応募がありませんでした。

3. 優秀論文に対する褒賞

令和5年3月の第98回及び9月の第99回大阪透析研究会で発表され、優秀論文選考委員会で選ばれたもの年間8件を表彰し、褒賞金各5万円を贈呈しました。

(1) 第98回大阪透析研究会優秀論文

- ① ペットシート交換時の感染対策に紫外線照射量増強が及ぼす影響について (錦秀会 阪和記念病院)
- ② 認知症患者へのアプローチ ～パーソン・センタード・ケア (PCC) を取り入れて～ (医療法人良秀会 藤井病院)
- ③ バスキュラーアクセスの機能評価における検討 (大阪公立大学医学部附属病院)
- ④ 血液透析患者における主観的 ADL 困難感と筋力の連携 (社会医療法人愛仁会 井上病院)

(2) 第99回大阪透析研究会優秀論文

- ① 当院の理学療法士の取り組みと役割 (岸辺くすのき透析クリニック)
- ② 透析開始時・終了時における安全への取り組み (社会医療法人警和会 第二大阪警察病院 臨床工学科)
- ③ 透析患者におけるデノスマブ投与後の低 Ca 血症予防策の適用タイミングに関する検討 (白鷺病院 薬剤科)
- ④ コロナ禍における透析リハビリについて ～筋トレでパワーをつけよう～ (同仁会 耳原総合病院)

4. 教育研修助成事業

関西医科大学附属病院に対し助成を行いました。

5. 学会等共催事業

腎・尿路疾患の予防と治療に関する学術研究の推進に寄与するため、学会等共催審査委員会で承認された学会及び研究会の共催事業を実施しました。

(1) 学会

- ① 第99回大阪透析研究会
開催：令和5年9月3日 於：大阪国際会議場
主宰：浅井 利大 (大阪市立総合医療センター)
- ② 第73回日本泌尿器科学会中部総会
開催：令和5年10月12～14日
於：奈良県コンベンションセンター
主宰：藤本 清秀 (奈良県立医科大学)
- ③ 第29回日本血液透析濾過医学会学術集会・総会
開催：令和5年11月25・26日 於：大阪国際交流センター
主宰：長沼 俊秀 (大阪公立大学大学院)
- ④ 第100回大阪透析研究会
開催：令和6年3月3日 於：大阪国際交流センター
主宰：東 治人 (大阪医科薬科大学)

(2) 研究会

- ① 日本組織適合性学会近畿地方会
代表世話人 芦田 隆司 (近畿大学病院)
- ② 大阪腹膜透析研究会
会長 林 晃正 (大阪急性期・総合医療センター)
- ③ 大阪腎移植病理組織研究会
代表世話人 岸川 英史 (兵庫県立西宮病院)
- ④ 腎疾患フロンティア研究会
代表世話人 角田 洋一 (大阪大学大学院)

- ⑤ 慢性腎臓病 (CKD) アウトカム研究会
代表幹事 倉賀野 隆裕 (兵庫医科大学)
- ⑥ 大阪骨粗鬆症検診を考える会
会長 稲葉 雅章 (大野記念病院)

6. 普及啓発事業

(1) キャンペーン活動及び啓発資料作成・配布

10月15日開催の「第50回堺まつり」にて街頭キャンペーンを実施、また、10月28日開催の「第49回すみよし区民まつり」にブースを出展し街頭キャンペーンを実施しました。

(2) 患者団体活動助成

患者団体の活動に対し助成を行いました。

- ① NPO 法人大阪腎臓病患者協議会 (大腎協)
- ② NPO 法人日本移植者協議会 (日移協)
- ③ 大阪移植の会
- ④ 大阪腎友会

(3) 勉強会の開催及び機関誌発行等

大阪府と共催で「臓器提供に関する研修会」及び「大阪府院内移植コーディネーター研修会」を開催しました。

- ① 11月12日 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンC)
- ② 1月19日 大阪工業大学 梅田キャンパス OIT 梅田タワー
- ③ 3月8日 大阪府庁本館

また、OKF ニュース NO.64 を発行し賛助会員等に配布するとともにホームページを更新しました。

7. 組織適合検査事業

- (1) 検査体制の整備に努めるとともに、検査事業の向上・改善を図るため、日本臓器移植ネットワーク、検査機関、移植施設と意見・情報交換を行いました。
- (2) 献腎移植希望登録を円滑に行うため、組織適合検査 (HLA 検査、クロスマッチ検査) を当財団の費用負担 (一部、府補助金及び患者負担あり) により、大阪急性期・総合医療センターで実施しました。
 - ① HLA 検査 88 件 (うち、患者負担徴収分 87 件)
 - ② 抗体クロスマッチ検査 0 件

8. 大阪府臓器移植コーディネーター事業

- (1) 日常活動として、三次救命救急センター、公的病院、民間病院の19医療施設を延べ57回訪問し、移植推進のための情報交換や普及啓発資料等配布した。臓器提供可能医療機関に対し移植医療の普及啓発を図るため、院内移植コーディネーター設置支援や臓器の提供に関する研修会の開催など提供体制の強化に努めました。また、大阪府、日本臓器移植ネットワークとの連絡調整業務を行いました。
- (2) ドナー発生時は日本臓器移植ネットワークの指示により腎臓提供を承諾する通報から腎移植に至るまで、腎提供施設・移植施設との連絡調整、組織型の適合した移植希望登録者への連絡、検体・腎臓の搬送、ドナー遺族への対応を行いました。
- (3) 令和5年度における、大阪府内でのドナー情報は17件あり、提供に結びついたのは7件でした。

<令和5年度 献腎移植実績>

提供：府内 5件10腎、府外7件7腎
移植：府内 15腎、府外2腎 計17腎

年 月 日	提供病院	移植病院	備 考
5年5月6日	大阪府立中河内救命救急センター	大阪市立総合医療センター	脳死
		大阪公立大学医学部附属病院	
5月31日	(愛知県内)	大阪急性期・総合医療センター	脳死
7月17日	(大阪府)	(大阪府)	心停止
		(大阪府)	
8月11日	(京都府内)	大阪急性期・総合医療センター	脳死
8月12日	(西日本地方)	大阪大学医学部附属病院	脳死
9月21日	(近畿地方)	大阪市立総合医療センター	脳死
		神戸大学医学部附属病院	
9月21日	(大阪府内)	大阪医科薬科大学病院	脳死
		大阪急性期・総合医療センター	
11月25日	神戸市立医療センター中央市民病院	大阪大学医学部附属病院	脳死
12月14日	長崎大学病院	大阪大学医学部附属病院	脳死
6年1月20日	済生会滋賀県病院	大阪大学医学部附属病院	脳死
2月20日	国立循環器病研究センター	九州大学病院	脳死
		大阪急性期・総合医療センター	
3月23日	京都第二赤十字病院	大阪大学医学部附属病院	脳死

(決算の概要)

令和元年以来恒常的な赤字解消のため、事業費の削減、資産運用の効率化に取り組んできました。その成果が徐々に表われ、令和5年度の当期経常増減額は332万円余りの黒字となりました。また、資産運用が順調なことから投資有価証券評価益を1,947万円余り計上出来たことから、正味財産期末残高は対前年比1,641万円増加し2億8,308万円となりました。

貸借対照表

令和6年3月31日現在 (単位:円)

貸借対照表表体。科目、当年度、増減の列で構成されている。

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで (単位:円)

正味財産増減計算書表体。科目、当年度、増減の列で構成されている。

理事・監事の選任

令和6年5月24日に開催された評議員会で理事の木村一尋氏の後任として、株式会社クボタ代表取締役副社長兼執行役員の吉川正人氏が新たに理事に選任されました。また、大阪公立大学大学院教授の武本佳昭氏及び近畿大学医学部教授藤田和利氏が新たに評議員として選任されました。

評議員会会長の交代

令和6年5月24日に開催された評議員会で、評議員会会長の平尾佳彦氏から本評議員会の終了を以て評議員を辞任したい旨の申し出がありました。このため、財団の定款第10条第3項の規定に基づき評議員の互選が行われ、大阪公立大学大学院教授の武本佳昭氏が新たな評議員会会長に選出されました。

平尾佳彦氏におかれましては、平成25年5月に評議員会会長に就任されて以来、11年の長きにわたり評議員会会長として財団運営に多大のご支援・ご尽力を賜りました。ここに感謝の意を表するとともに、今後益々のご活躍を祈念いたします。

評議員名簿 (五十音順) (令和6年5月24日)

評議員名簿表体。氏名、現職の列で構成されている。

◎ 評議員会会長 (15名)

普及啓発活動の紹介

財団では、10月の臓器移植普及推進月間に合わせ献腎移植の促進を図るため普及啓発活動を行っています。また、患者団体による普及啓発活動を支援するため各団体に助成金を交付しています。

①第50回すみよし区民まつり

10月26日に開催された第50回すみよし区民まつりの会場にブーステントを設置し、大阪府・市や患者団体、支援団体と協力して普及啓発資材の配布を行いました。



②第51回堺まつり

10月20日に開催された「堺まつり」の会場で普及啓発資材を配るなどして臓器移植の普及啓発に努めました。

③グリーンリボンデー

グリーンリボンデーである10月16日に府内施設4か所(万博公園太陽の塔、大阪城天守閣、天保山大観覧車、ダウンセンター)を臓器移植医療のシンボルカラーである緑にライトアップしました。



学会等共催事業

令和6年9月以降開催の共催学会は下表の通りとなっています。

学会名	開催日時・場所	主宰者(所属)
第101回大阪透析研究会	R6.9.15 大阪国際会議場	中村 敬弘 (医)宝生会PL病院
第43回日本マグネシウム学会学術集会	R6.11.16 あべのハルカス会議室	繪本 正憲 大阪公立大学大学院
第4回日本腎・血液浄化AI学会学術集会・総会	R6.11.24 ホテルアウイーナ	長沼 俊秀 大阪公立大学大学院
第8回I-HDF研究会	R6.12.8 お茶の水ソラシティカンファレンスセンター	武本 佳昭 大阪公立大学大学院
第34回泌尿器科分子・細胞研究会	R7.2.28～3.1 なんばスカイオコンベンションホール	野々村 祝夫 大阪大学大学院
第102回大阪透析研究会	R7.3.2 大阪国際会議場	角田 洋一 大阪大学大学院
第36回日本サイコネフロロジー学会学術集会・総会	R7.7.26～27 大阪国際会議場	藤田 譲 仁真会白鷺病院
日本性機能学会第35回学術総会・第35回日本性機能学会中部総会	R7.9.19～21 なんばスカイオコンベンションホール	野々村 祝夫 大阪大学大学院

※腎・尿路疾患の予防と治療に関する学会等との共催事業を実施し、寄付基金や経費支払の事務を行っています。令和7年度以降に検討又は計画されている学会等を対象に共催申請のご案内をしています。

申請書類・手続等は事務局までお問い合わせください。

献腎移植推進事業について(紹介)

大阪腎臓バンクでは、令和6年度より「献腎移植推進事業」を実施しております。

本事業は、献腎移植の推進にあたってはドナー情報の提供件数を増やすことが重要であるとの認識から、臓器提供の可能性のある患者情報(臓器提供条件を満たすことが確認されたもの)の提供があり家族説明が行われた場合には臓器提供の承諾、不承諾に関らず助成金(院内移植コーディネーター設置病院にあっては1件5万円)を交付することとしています。

また、その情報により府内移植病院において献腎移植が行われた場合には情報提供の助成金とは別に献腎移植の助成金(院内移植コーディネーター設置病院にあっては5万円)を更に交付することとしています。

事務局だより

1. 税額控除適用法人の証明(継続更新)

当法人への寄付金(賛助会費を含む)については、税法上、各種の優遇措置があります。そのうち、個人からの寄付金に係る所得税に関し、この度、大阪府知事から税額控除適用法人の証明(継続更新)を受けました。有効期間は令和3年8月16日から令和8年8月15日までです。所得税に関する優遇措置には所得控除方式もありますが、一般的には今回認められた税額控除方式の方が減税効果は高くなります。

他の優遇措置として、個人からの場合は大阪市民に在住の方は大阪市民税、大阪府民の方は個人府民税、相続税があり、寄付者が法人の場合は一般寄付金の損金算入限度額とは別に別枠の損金算入限度額が設けられています。

2. 支援型飲料自動販売機の設置について(お願い)

支援型飲料自動販売機設置事業は、自販機の設置者が指定する公益法人に売上金の一部を寄付するもので、飲料購入者の方も飲料の購入を通じて公益事業を支援する制度です。

新しく自販機を設置する場合や交換をお考えの際には是非とも導入いただきますようお願いいたします。ご検討いただける場合は大阪腎臓バンク事務局までご一報いただきますようお願いいたします。

3. 令和6年度教育研修助成事業の申請案内

大阪府に院内移植コーディネーター設置届出を行っている医療機関を対象に、臓器提供に関する教育研修の参加経費について助成を行っています。

対象となる教育研修等の詳細については、事務局までお問い合わせ下さい。

4. 令和7年度の理事会等日程

日時	会議名	備考
1月22日(水) 18:00	常任委員・常任理事会	2月理事会の議題整理
2月19日(水) 18:00	理事会	令和7年度事業計画(案)・収支予算(案)
5月14日(水) 18:00	理事会	令和6年度事業報告(案)・決算(案)
5月30日(金) 18:00	定時評議員会	令和6年度事業報告・決算承認

令和6年11月1日

編集・発行

公益財団法人 大阪腎臓バンク

発行人 高原 史郎

事務局 大阪市北区鶴野町4-11-709

TEL (06)6377-3000

FAX (06)6377-3022

URL: <http://www.okf.ecnet.jp>